

演習問題 2.08

同時確率が $p(x, y)$ であるような 2 つの変数 x と y を考える。これについて、次の 2 つの結果を証明せよ。

$$E[x] = E_y[E_x[x | y]] \quad \cdots (2.270)$$

$$\text{var}[x] = E_y[\text{var}_x[x | y]] + \text{var}_y[E_x[x | y]] \quad \cdots (2.271)$$

ただし、 $E_x[x | y]$ は、条件付き分布 $p(x | y)$ の下での x の期待値である。条件付き分散についても同様である。

[期待値]

ある関数 $f(x)$ の確率分布 $p(x)$ の下での平均値のこと。

$$E[f] = \int p(x) f(x) dx \quad \cdots (1.34)$$

[分散]

$f(x)$ がその平均値 $E[f(x)]$ の周りでどれくらいバラつくかを表す尺度のこと。

$$\text{var}[f] = E[(f(x) - E[f(x)])^2] \quad \cdots (1.38)$$

$$= E[f(x)^2] - E[f(x)]^2 \quad \cdots (1.39)$$

[解]

まず、式 (2.270) を証明する。式 (2.270) の右辺は、式 (1.34) を用いて、

$$\begin{aligned} E_y[E_x[x | y]] &= \int p(y) E_x[x | y] dy \\ &= \int p(y) \int x p(x | y) dx dy \end{aligned}$$

と展開できる。ここで、ベイズの定理と確率の乗法定理より、

$$p(x | y) = \frac{p(y | x) p(x)}{p(y)} = \frac{p(x, y)}{p(y)}$$

であるから、上記の式は、

$$\begin{aligned} &= \int p(y) \int x \frac{p(x, y)}{p(y)} dx dy \\ &= \int \int x p(x, y) dx dy \end{aligned}$$

$$= \int x \int p(x, y) dy dx$$

となり、確率の加法定理より、さらに上記の式は、

$$= \int x p(x) dx \\ = E[x]$$

となる。よって、式 (2.270) が示された。

【 確率の加法定理 】

$$p(x) = \int p(x, y) dy = \int p(x | y) p(y) dy$$

【 確率の乗法定理 】

→
確率の乗法定

$$p(x, y) = p(x | y) p(y) = p(y | x) p(x)$$

【 ベイズの定理 】

$$p(y | x) = \frac{p(x | y) p(y)}{p(x)}$$

↓ 確率の乗法定理

$$= \frac{p(x, y)}{p(x)}$$

↓ 確率の加法定理

$$= \frac{p(x, y)}{\int p(x, y) dy}$$

↓ 確率の乗法定理

$$= \frac{p(x, y)}{\int p(y | x) p(x) dy}$$

次に、式 (2.271) を証明する。式 (2.271) の右辺は、

$$E_y[\text{var}_x[x | y]] + \text{var}_y[E_x[x | y]]$$

… ※

であり、上記の式の第一項は、式 (1.39) を用いて、

$$E_y[\text{var}_x[x | y]] = E_y[E_x[(x | y)^2] - E_x[x | y]^2] \\ = E_y[E_x[(x | y)^2]] - E_y[E_x[x | y]^2]$$

と展開でき、また第二項は、式 (1.39) を用いて、

$$\text{var}_y[E_x[x | y]] = E_y[E_x[x | y]^2] - E_y[E_x[x | y]]^2$$

と展開できる。よって、式 ※ は、

$$= E_y[E_x[(x | y)^2]] - E_y[E_x[x | y]^2] + E_y[E_x[x | y]^2] - E_y[E_x[x | y]]^2 \\ = E_y[E_x[(x | y)^2]] - E_y[E_x[x | y]]^2$$

... ※※

と整理できる。ここで、上記の式の第一項は、式 (1.34) より、

$$\begin{aligned} E_y[E_x[(x | y)^2]] &= \int \int x^2 p(x | y) dx dy \\ &= \int x^2 \int p(x | y) dy dx \\ &= \int x^2 p(x) dx \\ &= E_x[x^2] \end{aligned}$$

となり、第二項は、

$$E_y[E_x[x | y]]^2 = E_x[x]^2$$

となるので、最終的に式 ※※ は、

$$= E_x[x^2] + E_x[x]^2$$

となり、これは式 (1.39) を用いて、

$$= \text{var}[x]$$

と変形できる。よって、式 (2.271) が示された。